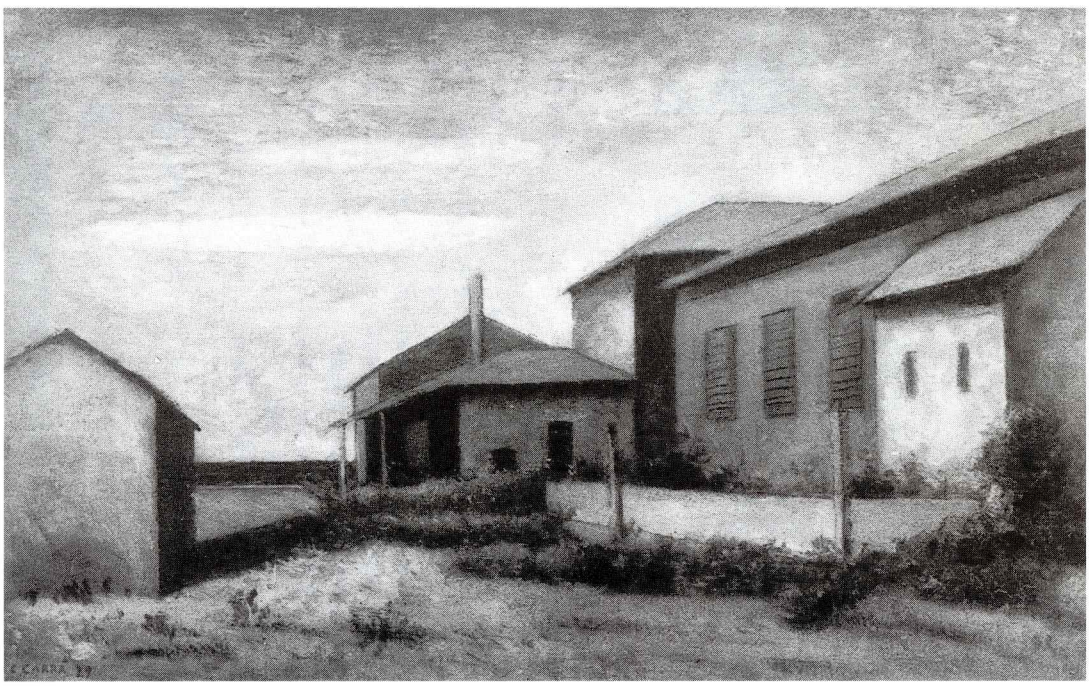
みる つくる かたる

千葉県立美術館報
VOL. 21 No.1
（通巻72号）
平成6年5月10日発行
編集・発行人 木村 卓
〒260
千葉市中央区中央港1丁目10番1号
☎043-242-8311（代表）



カルロ・カッラ「海辺の小屋」1929年

（特別展「イタリア・謎と神話」出品）

カルロ・カッラ（一八八一～一九六六）は、一九二一年頃からルネサンス初期のフレスコ画の影響が見られる「魔法の写実主義」や「神話的写実主義」と呼ばれるカッラ独自の様式を創造し、またイタリア美術が最高の調和を保っていた古代ローマからルネッサンスにいたる完璧な技術や偉大な思想をなつかしみ、古代職人のような名人芸的手腕を取り戻そうとした伝統回帰傾向のノヴェチェント（一九〇〇年代派）の中心的作家として活躍しました。

この作品は、形而上絵画の謎めいた雰囲気を残す独自の様式に、遠近感を取り入れた、新たな展開を示す作例のひとつです。

カッラは、一九一〇年に未来派宣言にも署名し、前衛的な表現を模索していました。その後、古典的表現への関心を示しはじめジョルジョ・デ・キリコとともに形而上絵画に取り組み幾つかの作品を描いています。こうしたイタリア近代美術の初期を形成する未来派や形而上絵画の運動を体験した後、ノヴェチェントにも参加し、それぞれの代表的な画家として活躍したカッラは、いつも流派や運動をこえた存在でした。

（三浦 拓郎）

みる

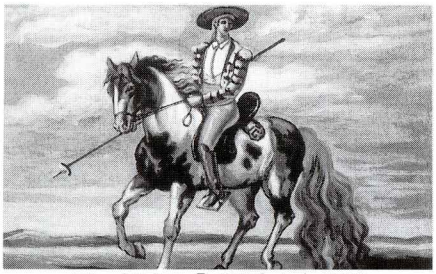
県民の日
記念事業

特別展
イタリア・謎と神話
ー一九三〇年・六〇年・九〇年の絵画ー
'94・5・14(土)〜6・19(日)

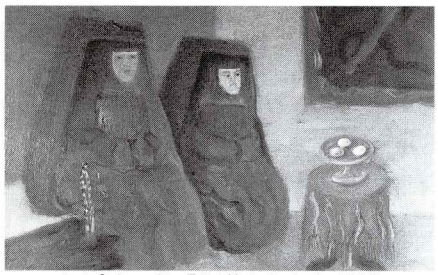
モランディ「静物」1947

イタリア二十世紀美術

イタリアは約三千年という長い歴史を持つ文化国家であり、十九世紀末に近代国家として統一しました。そして、イタリアの二十世紀美術が、展開する場において「伝統」と「革新」の両者は、互いに深く関わりを持ちながら存在し、外見上矛盾しながらも強く結合してきました。

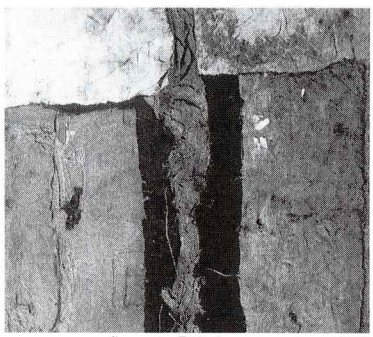

デ・キリコ「副闘牛士」1933

系統的な関係の中で発展をとげてきた、フランスなどとは異なり、イタリアでは同時期に性格の違う流れがあり、ひとつの系統の中で語ることは出来ない、様々な流れが複雑に絡みあっています。しかも、芸術活動の場もフランスならパリに集中していますが、イタリアはローマとミラノという二大都市のほか、トリノ、フィレンツェ、ヴェネツィア、ナポリといった都市でも活発に活動しています。この多様性は国家統一以前からの都市国家の伝統であり、地域主義的傾向を強く残しながら発展してきました。


シピオーネ「修道女たち」1933

さらに、イタリアの特徴として革新性があげられます。イタリアの場合、革新的表現がモチーフや技法などにおいて伝統を否定することによって成り立つものでなく、その伝統性を部分的に取り入れながら革新性を探っています。

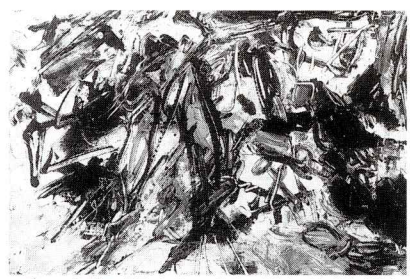
過去の芸術様式を否定することにより現代的な主題を追い求めてきた世界の現代美術の動向とは単純に同一視出来ない「イタリアらしさ」を見ることができます。それは、イタリアの数千年におよぶ伝統の重みであるとともに、その受容と反発が現代と絡み合って出てくる姿なのです。

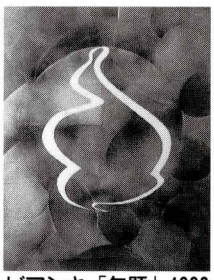

ブッリ「袋」1956

こうした伝統性と革新性が共存し刺激しあい、新しい表現を生み出してきた特徴的な年代として、国際的動向から離れ、伝統を見直す独自の展開をみせた一九三〇年頃と、逆に国際的傾向と連動しながら革新的な傾向を見せた一九六〇年頃、そして伝統を踏まえつつ新しい表現を探る一九九〇年頃があげられます。

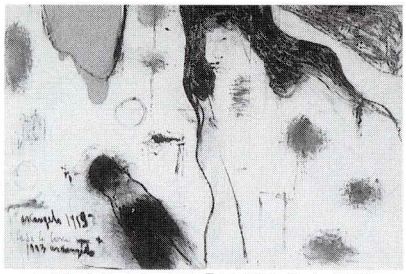
展覧会について

イタリア二十世紀美術を伝統性と革新性という視点でとらえ、「一九三〇年」「一九六〇年」「一九九〇年」の三部門に分け、四十作家八十一点の作品を紹介します。一九


ヴェードヴァ「スペイン、今日　1961, N.11」1961



ビアンキ「無題」1993



アルカンジェロ「月が沈む」1993

三〇年の部門ではとくに具象的絵画に焦点をあて一九二五年から一九三五年にかけて制作された十五作家の作品三十点を、一九六〇年の部門では革新的絵画に焦点をあて一九五五年から一九六五年にかけて制作された十五作家の作品三十二点を、そして一九九〇年の部門では一九八〇年後半から活躍している十作家の平面作品十九点を展示します。

（三浦　拓郎）

★開館時間
午前九時～午後四時三十分
（入場は四時まで）
月曜日休館

★観覧料
一般七〇〇円（四〇〇円）高・大学生四〇〇円（二五〇円）、小・中学生二〇〇円（七〇円）
（　）内は二〇名以上の団体料金

六月十五日の「県民の日」は無料になります。

美術講演会

本年度は、各展覧会に併せて美術講演会を四回実施する予定です。特別展「イタリア・謎と神話」－一九三〇年・六〇年・九〇年の絵画－の開催期間中における講演会を御案内します。

第1回美術講演会
日時　五月二十八日(土)二時
演題　「イタリアの近代美術の特色」
講師　井関正昭氏
（美術評論家）

※会場は本館講堂で参加者は二〇〇名を対象としています。聴講料は無料で当日先着順です。

常設収蔵作品展

本年度常設収蔵作品展は、日本画、洋画、彫刻、工芸、書、版画等の作品を、年間を通じ十一のテーマにより、順次展示します。

①「新収蔵作品」、②「宮之原謙の陶芸」四月一日（金）～五月八日（日）は終了しましたが、近代日本洋画の先駆者・浅井忠の「小丹波村」、バルビゾン派と日本近代洋画の関わりにおいて重要な位置を占めるフランス人画家フランソワ・オーギャスト・ラヴィエの「モレステル風景」をはじめ、版画の深沢幸雄「伝説」、染織の二口志保子「緑の頃」、書の高澤南総「藝に游ぶ」など、平成五年度新たに収蔵した作品と、日展等で活躍し、日本芸術院賞を受賞した本県を代表する陶芸家・宮之原謙の「盛上磁葡萄唐草壺」、「彩地盛連葉草文壺」等の作品を展示しました。

③「フォンタネージと浅井忠」五月十四日（土）～六月十九日（日）では、佐倉市出身の洋画家・浅井忠の秀作「藁屋根」や「沢入駅」、その師であり、日本で最初の本格的な美術教育を行ったイタリア人画家アントニオ・フォンタネージの大作「十月、牧場の夕べ」や、来日中に制作したデッサンなどを展示します。

④「石井林響の日本画」、⑤「浜口陽三・深沢幸雄の版画」、⑥「素描の世界」六月二十五日（土）～七月十七日（日）は、文展、帝展（現日展）等で活躍し、異色の作家として知られる千葉市出身の日本画家・石井林響の作品と、現在活躍中の本県を代表する二人の版画家・浜口陽三、深沢幸雄の作品と、いきいきとした魅力溢れる素描の作品を展示します。

⑦「房総の染織」十一月十二日(土)～一月二十二日(日)では、二口志保子をはじめとする、房総の代表的な染織家の作品を展示します。

⑧「描かれた房総」十一月二十六日（土）～一月二十二日（日）は、写生地として名高く、多くの画家が訪れ、数々の名作の舞台となった房総をモチーフにした作品を展示します。

⑨「水彩画の世界」、⑩「香取秀真、津田信夫の金工」一月二十八日（土）～二月二十六日（日）では、みずみずしい魅力に溢れた水彩の技法による作品と、近代金工の発展において多大な功績を残した二大巨匠、印旛郡印西町出身の香取秀真と、佐倉市出身の津田信夫の作品を展示します。

本年度の最後は、⑪「浅井忠」三月四日（土）～三月二十六日（日）により、浅井忠とその関連の作品を、浅井忠の作品と資料、バルビゾン派の作品、浅井忠の弟子の作品の、三つの区分により展示します。

浅井　忠「小丹波村」一八九三

展覧会案内

▼特別展 房総の美術

本館は、昭和四十九年十月に開館し、平成六年で二十周年を迎えます。その開館二十周年記念特別展として、房総に因んだ美術展を開催します。

この展覧会は、副題を「昨日から明日へ」とし、房総出身、あるいは在住作家を中心に、日本近代美術史上で活躍した作家、美術の振興に重要な役割を果たした作家、また現在わが国の美術界をリードする作家など約三〇〇名の代表的作品約三〇〇点を展示しする予定です。

房総は、わが国の近代美術の創設期に、洋画の浅井忠や工芸の香取秀真・津田信夫を輩出し、また、首都東京に隣接する地理的要因から多くの美術家が移り住んでいます。この展覧会は、近代美術の創設期から今日に至るまでの房総の美術史を回顧することを目的とし、併せて日本近代美術上に房総が果たした役割をも紹介し、明日への展望を提示しようとするものです。

出品作家については、現在美術評論家六名により組織された選考委員会で選考中で、まもなくその概要ができる予定です。

なお本展は、内容・会期を二つに分けて実施し、第一部として、洋画・版画・彫刻の三部門を七月二十三日(土)から八月二十八日(日)まで開催します。また第二部は、日本画・工芸・書の部門に焦点をあてて、九月三日(土)から十月九日(日)まで開催します。

入場は有料で、会期中に講演会も予定しています。

▼第18回 千葉県移動美術館

本館所蔵作品を、県内二会場で展覧し、より多くの方々に鑑賞していただけるように実施します。本年度の会場及び会期はつぎのとおりです。

■夷隅町文化会館

夷隅郡夷隅町深谷

一九六八ー一

十一月十八日(金)～十一月三十日(水)

■成田国際文化会館

成田市土屋三〇三

十二月三日(土)～十二月十八日(日)

新収蔵作品紹介

平成五年六月一日から平成六年四月三十一日までに収蔵された作品です。

購入

〔洋画〕

赤城泰舒作「普陀正趣亭」(水彩一九三六)他二点。

浅井忠作「小丹波村」(油彩一八九三)他三点。

石井光楓作「山番の小屋」(油彩一九七一)

〔版画〕

深沢幸雄作「記録」(一九六五)、「胎動(メヒコ)」(一九七五)他二十二点。

基金取得

第五回現代日本具象彫刻展の大賞、優秀賞の買い上げ作品。

〔彫刻〕

田中毅作「草枕の旅」(石一九九三)

中岡慎太郎作「"FANTASY"」(石一九九三)

笠原鉄明作「帰る日」(木一九九三)

寄贈

次の作品を寄贈いただきました。ここに厚くお礼申し上げます。

〔洋画〕

石井満氏より

石井光楓作「初霜」(油彩一九四四)

伊藤実氏より

十亀広太郎作「池」(油彩一九五〇)「上野公園池畔」「女」(一九一四)他水彩三点

国枝金三作「大阪風景」(水彩一九〇九)

山口翼氏より

フランソワ・ラヴィエ作「川辺」(鉛筆淡彩)

〔彫刻〕

長谷川昂氏より

長谷川昂作「花の国の母神」(木一九六二)

〔工芸〕

川上ひで氏より

川上祥三郎作「黄釉鳥紋大花器」(陶芸一九七五)他一点。

中臺瑞真氏より

中臺瑞真作「桐経箱」(木一九九一)他二点。

富取町子氏より

富取町子氏より

信田洋作「透彫菖蒲文筥」(彫金)

二口善雄氏より

二口志保子作「緑の頃」(染織一九六二)「水面」(染織一九六七)「紬織着物」他四点。

宮之原初子氏より

宮之原謙作「釉嵌よろけ縞と盛上円壺」(陶芸)「象嵌磁サボテン壺」(陶芸)

〔書〕

千代倉桜舟氏より

千代倉桜舟作「大王のひすめの音も…」(墨一九七二)「宗左近詩(縄文太鼓より)」(墨一九九二)

中村象閣氏より

中村象閣作「万葉二首」(墨一九九四)

十亀広太郎「池」1950

かたる・つくる

館長あいさつ

この四月一日に館長に就任しました木村卓です。どうぞよろしくお願いします。

さて、本美術館は、昭和四十九年度に開館しましたので、本年度は丁度開館二十周年にあたります。この記念すべき年に就任させていただいた私といたしましても、二十年の歴史の重みを踏まえ、より良き美術館を目ざし、そして皆様からの多様なニーズに応えられるように鋭意努力してまいりたいと思います。

本美術館は、開館以来、総合的な美術館活動の推進を図り、さまざまな活動を行ってまいりました。その主な内容として、近・現代美術及び千葉県ゆかりの作家の作品や関係資料を体系的に収集し、収蔵作品及び常設展の充実化を図る一方、特別展や企画展を開催して国内外の美術の紹介、収蔵作品による巡回展、洋画や彫刻の全国公募展など多彩な展覧会を実施、そして、展覧会に関連した美術講演会や創造する楽しさを体験していただく実技講座などの普及事業を行い、さらに、美術関係図書やビデオを備えた情報資料室やビデオコーナーなどの整備に努めてまいりました。

今年度も従来の事業を引き続き実施しますが、特に、特別展については、国際展として、二十世紀イタリア美術の流れを概観する「イタリア・謎と神話」のほか、開館二十周年記念展として明治から今日までの千葉県主要作家を対象とした大規模な展覧会「房総の美術」を第一部、第二部に分けて開催します。ぜひ御観覧いただきたいと思います。

今後、一層皆様に親しまれる美術館になるよう邁進してまいりたいと思いますので、御指導・御支援の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

情報資料室だより

●購入図書の御紹介

◇平成五年十月以降に購入した主な図書は次のとおりです。

□作品集

「石井鶴三素描集第3巻」「江戸時絵図譜」「現代日本の野外彫刻」「鹿子木孟郎画集」「NHK日曜美術館　幻の画家・回想の画家1～5」ほか

□美術評論

「マイヨールの芸術」「小山正太郎先生」「河北倫明美術時評集第4巻」「森の掟」「美術館とは何か」「美術雑誌明星　復刻版（第二次）」「高村豊周文集Ⅲ」ほか

●寄贈図書・図録の御紹介

◇千葉市在住の鈴木満平さんから図書約一二〇冊を頂きました。以下は主な図録です。

「ヒューマン・リアリズム展」「パナマレンコ展」「ディマシオ展」「ウィーン幻想派展」「岩橋英遠展」「大北斉展」「下村観山展」「小堀四郎展」「上村松園展」「山本芳翠の世界展」「小倉遊亀展」ほか

◇茂原市在住の小川克己さんから図書六冊と美術・写真雑誌約八十冊を頂きました。頂いた図書は次の通りです。

「ドアノー写真集1～4」「土門　拳　手ーぼくと酒田」「商業写真と特殊技術」

◇昨年度、全国から寄贈された主な図書は以下の通りです。

□全集・年鑑・団体史等

「日本美術院百年史14巻」「長野県美術全集8」「日本美術全集24　近代の美術Ⅳ」「日展史23」「日本美術年鑑平成3年度、4年度」ほか

□美術教育・評論・随筆等

「水彩の指導」「大分の近代美術」「西洋美術読本」「神楽囃子がきこえる」「彫刻に触れるとき」ほか

□ガイドブック

「東京周辺の美術館」「ちばの博物館」「ロンドンおもちゃ模型博物館」ほか

□作品集

「五十嵐幹日本画作品集」「中村貞夫画集6」「早川義孝作品集」「森掬生画集」「朝井閑右衛門　不動明王画集」「長谷川良雄画集」「原勝郎画集」「三木貞夫作品集」「彫刻家　伊藤忠義」「宇部の彫刻」「菅原安男作品集」「終わりのない物語」「万葉叙情小暮青風書作集」「日高誠実遺墨集」「関根薫園書作集」「桑原翠邦作品集」ほか貴重な資料を寄贈された方々に厚くお礼申し上げます。

◇情報資料室には特別展「イタリア・謎と神話」に関連した図書、図録もありますので御利用ください。

◇開室日　火～金曜日（祝日休館日を除く）　十二時三十分～四時三十分。貸出し、コピーサービスは行っていません。

個別ビデオライブラリー

平成五年度新たに二台のビデオブースを増設し、あわせて三台が県民アトリエホールに設置されました。

ビデオソフトは、美術作家シリーズのほか、美術鑑賞の方法、伝統工芸シリーズなど幅広いジャンルを対象とし、常時四十本の中から視聴できるように整備しています。また、ビデオソフトは順次入替えを行っています。

どうぞ隣接する情報資料室と併せてご利用ください。

ごあんない　実技講座（6月以降）

◆日本画講座
会期　6月14・15・16・18・19・21・22・24・25・26・28・29日（12日間）
講師　斉藤　惇氏
内容　静物・風景
定員　15名
締切　5月31日（火）

◆版画講座
会期　7月5・6・8・9・10・12・13・14・16・17・19・20日（12日間）
講師　増田陽一氏
内容　銅版画
定員　20名
締切　6月21日（火）

陶芸講座

金工講座

◆彫刻講座
会期　9月1・2・3・6・7・8・9・10・13・14日（10日間）
講師　石橋　亘氏
内容　石彫
定員　15名
締切　8月18日（木）

◆陶芸講座
会期　10月18・19・20・21・11月22・29・12月7日（7日間）
講師　鎗田和平氏
内容　茶碗・花瓶
定員　30名
締切　10月4日（火）

◆書芸講座
会期　11月9・10・11日（3日間）
講師　中村象閣氏
定員　25名
締切　11月16日（水）

◆金工講座
会期　1月18・19・20・21・24・25・26・27・28・31・2月1・2日（12日間）
講師　小林正利氏
内容　銅板レリーフ
定員　15名
締切　1月5日（木）

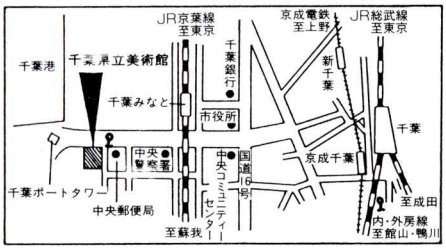
《申込方法》
往復はがきに希望講座名、住所、氏名、電話番号を明記のうえ、（はがき一枚につき一名）美術館普及課までお申し込みください。
なお、定員を越えた場合には抽選となりますのでご了承ください。

職員異動

平成五年度末人事異動により、次の職員が異動しました。

◆退職者
白石　竹雄（館長）

◆転出者
米田　耕司（主任学芸員兼学芸課長→安房博物館長）
所　甚一（庶務課長→教育庁学校教育部教育計画課主査補）
大久保　守（研究員→上総博物館学芸課長）
葛生　久雄（副主査→教育庁管理部福利課主査補）
渡邊　和子（主任主事→県総合教育センター主任主事）
安西　寿子（主事→東葛飾支庁船橋県税事務所主事）

◆転入者
木村　卓（県立幕張西高等学校長→館長）
桐谷　正義（教育庁生涯学習部振興課主幹〈派〉県社会教育施設管理財団事務局長→副館長兼庶務課長）
濱田　芳久（茂原市立早野中学校教諭→研究員）
幅　大（中央博物館主任技師→主任技師）
大堀　昭一（県教育庁生涯学習部体育課主任主事→主任主事）
積田　秀樹（県教育庁山武地方出張所主事→主事）
川内　啓子（県総務部財政課主事→主事）

〈交通案内〉
●ＪＲ総武線「千葉駅」より「千葉ポートタワー行」バス15分「美術館・郵便局前」下車徒歩１分
●ＪＲ京葉線「千葉みなと」駅下車徒歩８分